



2009年3月入職

ば ば あ き み
馬 場 亮 美

人生背景を想像して、治療に臨む

自分のキャパシティを増やしていくために

実は昨年、「エキスパートCEに立候補してみないか」という誘いを受けていたのですが、そのときは辞退しました。知識量がまだまだ足りないという不安があったからです。そんな私の背中を押してくれたのが、エキスパートCEでもある先輩。勤務先のクリニックは別なのですが、大きい会議で顔を合わせるようになったのをきっかけに、プライベートでもお会いするようになりました。その方はエキスパートCEの研修の講師も務めていて忙しいはずなのに、切羽詰った様子が全くありません。穏やかに、そしていきいきと働いていらっしゃるって、その姿を見ている内に自分もそうなりたいと感じるようになったんです。通常業務とは別に、グループの全施設で使用するマニュアルをつくるという仕事も抱えていた時期ではありますが、自分のキャパシティを増やすために、立候補に踏み切りました。



4年経っても、消えない言葉



これまでのキャリアの中で、忘れられない出来事があります。入職して半年ほど経った頃、ある患者さまが入院前の最後の透析を行っていて、その方の穿刺を私が担当することに。当時の私にとっては技術的にも難しく感じたのですが、「失敗してもいいから必ず成功させなさい」とおっしゃっていただきました。帰り際、その方は私の腕をグッと掴んで「生きるということはとても大変なことなの。それを忘れないで」と強く言い残して帰られました。3日後に亡くなられたこともあって、その

出来事は今でもありありと記憶によみがえるくらいに印象に残っています。

4年経った今でも、あの言葉の意味を考えることがあります。私たちは日々多くの患者さまに接しますが、皆さん外部からは分からない色々なものを抱えながら生きていらっしゃると思います。別の病気に罹っていらっしゃるったり、家庭の事情があったりと、悩みはたくさんあるはずですよ。透析によって、何かを我慢されていることもあるかもしれません。あのときのお言葉は、一人ひとりの人生背景を想像し、理解した上で治療に臨むことを、どんな時も忘れないでほしいという意味なのだ、今は捉えています。CEとして、そして医療に携わる人間としての私を、今でも支えてくれている出来事です。

お客さまに満足していただくため、
安心して治療を受けていただくため、
全ての業務を全力で行います。

馬場 亮美